

学校だより YAMADA

新潟市立山田小学校

令和4年12月16日

児童数 393名

やまだ

TEL.025-377-2114

Email:e717yamada-yakifuna@city-niigata.ed.jp

<http://www.yamada-es.city-niigata.ed.jp/>

山田っ子祭りの伝統～40年前も今も～

校長 青木 清美

延期になっていた「山田っ子祭り」を12月8日に開催しました。マスクの着用、窓を開けて会場の換気等の感染対策を行いました。山田っ子祭りは児童会の総務委員会が提案して、3年以上の各学級がアトラクションを行いました。1・2年生は祭りに楽しく参加しただけなく、『山田っ子祭り』の標示や『他学年とかかわり みんなが楽しいと思える 山田っ子祭りにしよう』のスローガンの飾り付けを作って、祭りを盛り上げてくれました。

当日、「楽しい祭りだった」だけで終わったわけではありません。いろいろな学年の子どもと触れ合うことができました。また、当日に至るまでの話合い、相談・準備・PRも、子どもたちにとって価値のある教育活動だったのです。

- どういうアトラクションにするのか考えるときに、スローガンに合っているのかどうかを基に、学級会で話合いをする姿
- グループに分かれて準備を行うときに、どうやったらよいか相談して、準備を進める姿
- どうやってPRしたらよいかを考え、相談して、伝わりやすいようにポスターを作成したりPR動画に出演したりする姿

もちろん、すべてがすんなりと決まったわけではありません。相談や話合いでは、「いや違う」「私は○○に賛成で、▲▲には反対だ」というように、意見や考えがぶつかることもあったはずですが。そんな時に、子どもたちも「心」をもった人間ですから、「おもしろくない」とか「悔しい」、「残念だ」という気持ちになった人もいたはずですが。

しかし、こういった経験こそが大切なのです。どうやって折り合いをつけるのか？自分の主張だけでなく、相手の言い分にも耳を傾ける。みんな（学級・グループ）で話し合っただけで決めたことには、協力して行動する。こういったことを実際に活動を通して学ぶチャンスです。

ところで、この「山田っ子祭り」ですが、校長室にある古いアルバムを見ると**40年も前から**行われていることが分かりました。セピア色の写真は、**40年程前（1983年・昭和58年頃）**のもので、体育館で、その当時も今も人気のあるアニメキャラクターをかたどったみこしを担いで盛り上げていたのです。

ひょっとしたら、地域の皆様、保護者の皆様には、「この写真に見覚えがある。」とか、山田小学校出身の方なら「私たちの頃もあって、楽しかった。」という方もいるかもしれませんね。

「昭和」の時代だった40年前も「令和」の時代の今も、変わらないものがあります。

山田っ子祭りを通して、

- ほかの学年の子どもとも仲良くなり、楽しい学校生活を送ろうという子どもの思い
- 計画や相談、準備を協力して行い、みんなで盛り上げていこうとする姿